

「降るのよ螢が。見たことなからう？
 (中略)とにかく、ものすごい数の螢よ。
 大雪みたいに、右に左に螢が降るがや」
 「四月に大雪が降るほど、
 冬の長い年でないと、螢の奴は
 狂い咲いてくれんちゃ」



1978年 筑摩書房 (写真は、川三郎作 泥の河 螢川 道頓堀川|ちくま文庫)

Story

「四月に大雪が降ったら、その年こそ螢狩りに行こう」、銀蔵爺さんとの間でそんな約束をかわしたのは、竜夫が小学4年生になった年であった。そして中学3年生になる4月、「目えむくほどの大雪」が降る。その間親友そして父重竜の死に逢い、悲しみ戸惑いながらも螢狩りを決行する。恋心を寄せる幼馴染の英子を誘い、母千代と銀蔵の4人でいたち川上流へと向かう。第78回(1978年)芥川龍之介賞受賞作品。

作品の世界

宮本輝氏が富山で過ごしたのは、小学4年生になる直前からの約1年間。しかし父の新事業は好転せず、途中から家族が離れて暮らすなど、よるべない生活であったという。そんな時代ではあったが、市立八人町小学校の担任・荒井先生のおかげでのびのびと学ぶことができた。「恩師」、そして「母校」であると宮本氏は言う。この富山時代については『流転の海 第四部 天の夜曲』に描かれている。

芥川賞受賞品の懐中時計



実物は、当ミュージアムの愛用品コーナーに展示しています。

映画紹介

1982年122分

原作 宮本輝	主なキャスト 水島重竜 三國連太郎	監督は「けものみち」「野獣死すべし」復讐のメカニックの須川栄三。
監督 須川栄三	水島千代 十朱幸代	三國連太郎、十朱幸代ら豪華俳優陣と坂詰貴之、沢田玉恵ら若々しい演技が物語に深みを与えている。映画では螢の大群を見た二人は結ばれる、という伝説が加味されている。特撮で表現されたラストシーンは、各方面で話題となった。
脚本 中岡京平、須川栄三	水島竜夫 坂詰貴之	
音楽 篠崎正嗣	辻沢英子 沢田玉恵	

あと千五百歩

たいが歩いたが、まだ螢は現れない。あと千歩行って螢が出なければならぬ。めゆ、という童夫。「千五百歩目に出たらどうするがや」と返す英子とのやりとりが一行を柔ませる。そしてこの瞬間、自分達の行く末を螢の出現に賭ける母千代。7ライヴス目前で言葉が手にモーグリの間を与えるような印象深いシーンです。